

国際ロータリー第2840地区<群馬>2013-2014年度

ガバナー月信

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER
to Rotary club presidents and secretaries



群馬県のマスコット
「ぐんまちゃん」
許諾第25-190330号

2013
6



本田ガバナー事務所

〒371-0855 群馬県前橋市問屋町2-2 前橋問屋センター会館1F
TEL:027-212-2840 FAX:027-212-2841
E-mail:honda@rid2840.jp

創刊ゼロ号
Vol.0

2013年6月15日発行

本田ガバナー 事務所 スタッフ一同



副幹事 鴻田 敦



副幹事 長谷 浩克



副幹事 奥野 和義



事務局 入山 こそ江



地区幹事 板垣 忍



ガバナー 本田 博己



会計長 平出 昌男



事務局 須藤 真希子



副幹事 石井 繁紀



副幹事 星野 洋一



副幹事 温井 尚久



副幹事 星野 大輔



副幹事 小林 幹昌

目次

○月信発刊に寄せて 2013-14年度ガバナー 本田 博己 ……02	•地区協議会開催に当たって ……19
○ロータリー世界平和フォーラム広島講演 ロン・バートンRI会長エレクト ……03	•ガバナー・メッセージ・地区目標(「ガバナー事務所からのお知らせ」) ……20
○ガバナー・スタッフ紹介 ……05	○「ガバナー事務所からのお知らせ」その他重要情報
○これまでの本田ガバナーのメッセージ	•2013-2014年度 地区組織図 ……23
•2013年国際協議会報告 ……12	•地区組織編成の考え方 ……24
•ロン・バートンさんのRIテーマについて ……13	•標準ロータリー・クラブ定款の改訂について ……29
•ガバナー・メッセージ～PETSに寄せて ……15	•ロータリーの目的(「綱領」の邦訳改正) ……35
	○本田ガバナー事務所案内図 ……36
	○編集後記 ……37



月信発刊に寄せて

国際ロータリー第2840地区
2013-2014年度
ガバナー 本田 博己

会長エレクト・次年度幹事の皆さんこんにちは!!

あと半月で、いよいよ私たちのロータリー年度が始まります。準備は整いましたか？ 私たちは2013・2014年度に地区指導者、クラブ指導者として共に歩む同期の級友(classmate)です。それぞれの役割でリーダーシップを発揮して、地区もクラブも充実した年度になるよう努めましょう。

さて、これから毎月1日発行で7月号から来年6月号まで、ガバナー月信をお届けします。年度を総括する終刊号も来年7月にお届けする予定です。

本号は、創刊ゼロ号で、ガバナー・エレクトとしてこれまで発信した私のメッセージ、そして、地区組織編成の考え方や標準ロータリー・クラブ定款の改訂箇所、「綱領」の邦訳改定(ロータリーの目的)等の重要情報を掲載するとともに、ロン・バートンRI会長エレクトの「ロータリー世界平和フォーラム広島」での講演を掲載しました。私は、広島で、バートンさんの講演を聴きながら、バートン会長の年度にガバナーができて幸せだなあ、と強く思いました。ぜひご一読ください。また、私たちガバナー・スタッフが互いに紹介し合うページもあります。ご笑覧ください。

「ガバナー月信」の表紙には、毎号「月信」の英語表記が記載されているのをご存じですか。「月信」は英語では“GOVERNOR'S MONTHLY LETTER to Rotary club presidents and secretaries”となっています。要するに「月信」は、ガバナーからクラブ会長・幹事宛の月次の私信なのです。ですから、会長・幹事の皆さんには、必ず熟読して、クラブ運営の参考にさせていただきたいのです。

さらに、「私信」ではありますが、今後、月信で、皆さんの活動と貴クラブの活性化に少しでも役立つ情報をお伝えすることができるよう努めますので、重要情報は可能な限り例会で会員全員に周知していただくことをお願い申し上げます。また、地区やガバナーに対する忌憚のないご意見・ご提言を賜れば幸いです。

一年間、月信のご愛読、ご活用どうぞよろしくお願い申し上げます。

2013年6月15日



ロン・バートンRI会長エレクト ロータリー世界平和フォーラム広島 講演

2013.5.18

(RID2680 GE 大室 儻氏提供)

ロータリアンの皆さん、この平和フォーラムでお会いできて大変嬉しく思っています。

RI会長エレクトの仕事の一つに旅があります。旅ばかりで退屈だろうと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。

私はいつも心ときめかせています。そこには、異なった様々な仕事をしているロータリアンがいて、多くの人の人生を豊かにし、彼自身の人生も豊かにしている人と会えるからです。

ロータリーにいるから、助けなければいけない人に会えるのです。そして、その人々を豊かにすることができます。

私達はロータリーの色々な方法で、世界を平和にする機会に恵まれます。

今日は、ロータリーが与えてくれるチャンスについて語り合しましょう。

私達が語り合わなければいけないことは、ロータリーのチャンス、機会についてです。

ロータリーは私達に大きな成果を上げるチャンスを与えてくれます。そして、ドアを開いてくれます。

しかし、成果を求めるのなら何かをしなければいけません。ロータリーで成果を求めるなら、真剣に取り組まなければいけません。

もし、あなたがロータリーで何かをすることを望むなら、あなたが人生を豊かにすることを望むなら、あなたが取り組まなければなりません。ロータリーがあなたに語りかけるものを見つけなければいけません。

それが、クラブ奉仕・社会奉仕・国際奉仕、つまり、水問題、妊婦・小児の健康、あるいはポリオプラスであろうとも、あなたはそれらを見つけ、取り組まなければなりません。

ロータリーは、一人のロータリアンでも様々な方法でロータリーの奉仕が出来る程、大きな組織です。

世界中にロータリーのお陰で、生活を改善しつつある人がいます。学校へ行っている子供、きれいな水を飲んだり、十分な食べ物が必要な人がいます。

ポリオに罹っても何百万人もの歩いている人、麻痺のない人がいます。



ポールハリスがロータリーを作ったからでもなく、多くのクラブに多くのロータリアンがいるから、この人達の人生が良くなったのではありません。

ロータリアン一人ひとりが、ロータリーを通じて他の人の人生をより豊かにしようとしたからです。可能性を引き出すことに決めたからです。

ロータリアンが、人々の人生を豊かにしようとしたからです。

つまるところ、どうして私達はここに広島に来ているのですか。私達は何故みんなロータリーに入っているのですか。

私達は長い間、ロータリアンでいました。私は想像を絶する時間をロータリーに割いています。それでも、ロータリーから受けた恩を十分に返せたとは思っていません。

もし、私をロータリーに誘ってくれた人がいなかったら、もし、私がロータリーに係わることを支えてくれる人がいなかったら、そんな私の人生を想像することができません。

皆さんは、今日ここで、もう一段高いレベルのロータリアンになろうとしています。そして、皆さんは、今日またロータリーを知り、ロータリーを信じ、ロータリーは何が出来るのかを知ります。

そして私は、ここにいる皆さんにお願いします。ロータリーの旅では常に前進してください。

あなたのクラブでなく、あなたの地区でなく、あなたが何なのかを見定めてください。自分に言い聞かせてください。私は“もっと良くなれる”と。

新しいプロジェクトを始めていようと、もっと多くのプロジェクトに取り組もうとしていようと、クラブで新しい仕事にかかろうと、クラブのリーダーシップを発揮する役目を担おうと、あなたがもっと多くのことをロータリーで達成する一つの方法は、あなたが今以上にロータリーに真剣に取り組むことです。

そして、ここに出席している人々は、すべてこのフォーラムで、ロータリーを通して私達がやろうとしていることは大切なことであることに気づくでしょう。

ロータリーの奉仕活動は、人々を援助し、幸せにし、希望を与えて、そして奉仕を通して平和を築くのです。

私達の一人ひとりからロータリーの奉仕活動は始まるのです。

ありがとうございました。

本田ガバナー事務所スタッフ紹介



ガバナー 本田 博己さんの紹介

白髪の学者風、ワインを傾け、酒の付き合い良く、カラオケでは加山雄三を好む。全国のロータリアンと交際が広く、その情報量と新鮮さには驚かされる。私の知る限り、ロータリーに関する知識は地区内随一、将来を見据えた見識の高さ、そして改革を実践する胆識を持ち合わせている。

ロータリー・リーダーシップ研究会日本支部の委員をつとめ、年間を通じた会長卓話集は、ある地区では会長エレクトのテキストとなっています。

彼のロータリーの基本コンセプトは、「まずサービスを自己の利益や都合より優先させよう。利益はサービスの結果である。相手のために最善のサービスをすれば、その報いとして最大の金銭的な利益と、大きな精神的満足が得られる」。

「希望」というテーマを掲げ、1年間多くの会員と2840地区の歴史が作られることを期待します。

文責 大島雅彰



地区幹事 板垣 忍さんの紹介

本田GE事務所開設に当たり、板垣幹事よりスタッフ招集案内が来た。本田組と称し、若頭(幹事)・8名の組員(副幹事)の名前があり、組員は連合組織(地区役員)の経験はなく、平均年齢47歳と若く、一人ひとり個性豊かな人ばかりである。

この組織体制から目標に向かって行動を起こす勇気、活力を感じ、取り纏め役としての意気込みを、信頼を大切に、マメに行動する彼の一面を見た思いがした。

人と接するに当たって、場の楽しみ方、楽しませ方を知っているのは彼の天性であり、いつも笑顔で生き生きとしている。本田ガバナーを支え、事務所スタッフ・地区チームとともに年度運営をやり遂げるものと確信をしている。

文責 平出 昌男



地区会計長 平出 昌男さんの紹介

平出さんといえば、前橋RC内では、その職責を見事に務められた歴代の名幹事・名会長として知られています。特に、曾我 隆一ガバナーをクラブから輩出した2005-06年度には、地区大会のホストとして地区運営を全面的に支援しながらも、クラブ会長として年間を通じて充実したクラブ運営を行った功績が忘れられません。前橋RCのかけがえのないクラブ指導者のお一人です。

そんな平出さんですが、万事に控えめな性格からか、あるいは大病を経験されたからか、どういふわけか地区にはこれまで出向されたことがないのです。

今回の会計長就任要請にも当初は固辞されていましたが、私と板垣地区幹事で相談し、ある秘策を用い、ようやく就任していただきました。今では、ほぼ毎日、ガバナー事務所に通われ(会社のオフィスより徒歩2分)会計長としての職務に専心されています。

平出さんは、私たちガバナー・スタッフには、なくてはならない存在なのです。私も、板垣地区幹事も、どちらかと言えば“行け行けドンドン”だし、副幹事も皆若いので、平出さんに“重し”になっていただき、私たちに軽挙妄動があれば押さえていただきたいのです。頼りにしております。ハイ。

文責 本田 博己



地区副幹事 鴻田 敦さんの紹介

あつしく〜ん。ハイ!

僕の名前は鴻田敦です。税理士法人けやき総合事務所の代表社員をします。皆からは若いと言われますが、実は53歳になっちゃいました。

税理士会の前橋支部長が終わってホッとしていたら、板垣幹事に心の隙を突かれてしまい、気が付いたら副幹事になっちゃってました。世の中、いつ疫病神に取りつかれちゃうかわかりません。皆さんゆめゆめ油断なされぬようお気を付けて正しい生活を送りましょう。

まあ、こうなったら、大好きな野球で時々お見せしてるファインプレーしっちゃおうかな〜と密かに闘志を燃やしています。皆様よろしくお願ひします。

文責 板垣 忍



地区副幹事 長谷 浩克さんの紹介

上場企業の専務取締役という要職にありながら自クラブの親睦委員長もこなすというデキル男で、前橋法人会青年部会の部会長として若手経営者のリーダー的存在でもあります。

その一方で宴会の時など舌鋒鋭い「ツッコミ」と歯に衣着せぬ「毒舌」は、どんな時でも笑い(苦笑いを含む)の中心にいます。

50歳を過ぎたころからメタボを気にし始め会社でなるべく歩くようにしただけで〇キロ減量できたとのこと。それまでの運動不足と不摂生が目浮かぶようです。

こんな彼ですがガバナー事務局入山さんの夜遅くまでの残業を常に気にしているという優しい側面も持っています。

これからもガバナースタッフの中心となって活躍して頂くことを期待しています。

文責 鴻田 敦



地区副幹事 奥野 和義さんの紹介

いつも寡黙で修行僧を思わせる風貌。不精なのかオシャレなのか判別不能なヒゲ。奥野和義地区副幹事とは、そのような外見の人物です。

仕事は石屋さん。固いことこの上ない商売ですが、本人の性格も商売に負けないくらい堅いか否かは定かではありません。しかし、彼は作業着の腕に「我行精進」の言葉が掲げており、かつての貴乃花・若乃花を輩出した藤島部屋顔負けの四文字熟語状態で、それを座右の銘としています。

日々研鑽を積みいつもポーカークフェイスですが、その裏に隠された本当の姿は誰も知りません。合掌。

文責 長谷 浩克



地区副幹事 石井 繁紀さんの紹介

株式会社石井設計の社長。背はすらっと高く、バリバリと日本中を仕事で駆け回っているビジネスファイター！です。

ある時、彼が愛車を駆りパトロール中に名誉の負傷！鎖骨が折れてしまった！本田ボスの命令により、板垣ドクターから生きて腸内に到達する乳酸菌シロタ株が1本に400億個入った、乳酸菌飲料「ヤクルト400」の多量投与！そしてチタンのプレートとボルトで鎖骨を固定する手術を受け、見事に人造人間のヒーローとして蘇った！以来セキュリティチェックで金属反応が出てしまい、飛行機に乗れなくなってしまったが、事務局員の入山女史に「ここにチタンが入っているんだぜ！触ってみて！」と触らせているとか、いないとか……

次の被害者は、須藤女史か……

注：この紹介文は、一部フィクションです。

文責 奥野 和義



地区副幹事 星野 洋一さんのご紹介

星野洋一さんは文真堂書店の二代目の社長さんで年齢は46歳、AB型の天秤座です。

ご家族は奥様と4歳と2歳のお子様。奥様は群馬交響楽団のファゴット奏者でもあります。

ご本人も、大学時代の音楽バンド活動を長らく休眠されていましたが、近年復活され、クラブ内で「RCローガンズ」というバンドを結成、クリスマス会で素晴らしいベースを披露してくれます。

他団体関係では、前橋商工会議所青年部・緑水会のOB、群馬経済同友会などをご一緒させて頂いています。

物腰が穏やかな方ですが、自分をしっかり持っている人と感じます。

文責 石井繁紀



地区副幹事 温井 尚久さんの紹介

温井尚久さんは、株式会社ヌクイで代表取締役社長を務める、新進気鋭の実業家です。

会社以外でも、前橋青年会議所理事長、群馬銀行「群青会」代表幹事、前橋女子高校PTA会長等、名だたる団体のトップを歴任されてきました。明るく温厚な風貌と、面倒見がよく気配りも細やかな性格は、誰からも慕われ、そして頼りにされる存在です。

また、学生時代には混声合唱部で活躍され、現在は前橋ロータリークラブの合唱部「コール・グローリア」にて、その美声をふるっています。ロータリー歴はまだ短いですが、これからの活躍が期待される実力派です

文責 星野 洋一



地区副幹事 星野 大輔さんの紹介

星野大輔さんは消防施設工事を行なう星野総合商事(株)の営業部長として日夜、仕事に邁進しています。

いつもにこやかな表情をしており、性格の良さがにじみ出ています。常に冷静で与えられた役割を淡々と卒なくこなします。これは持って生まれた性格と長い営業経験からでしょうか？

ところがその姿は夜の街では豹変するという噂が?!前橋の夜の街の活性化は星野君の双肩にかかっています。皆さんも星野さんと一杯やってみてください。あなたはきっと星野さんの奥の深さを感じることでしょう。

文責 温井 尚久



地区副幹事 小林 幹昌さんの紹介

地区副幹事の小林幹昌氏のご紹介をさせていただきます。まず私と小林氏は、今年45歳になる昭和43年生まれの子年であります。同じ年ではありますが、ロータリー活動はもとより、仕事においても先輩として日々アドバイスを頂いております。

ONとOFFがはっきりして、どのような状況においてもコミュニケーションをとり、物事の一つ一つにストーリーを設定し親身になって相談に乗ってくれる頼もしい人柄です。

これからも様々な知恵をお借りできればと思っております。ガバナー事務所に必要不可欠な人物であることと確信いたしております。

文責 星野 大輔



事務局員 須藤 真希子さんの紹介

前略、安藤年度でお世話になった皆様、わたくし“新井真希子”は、去る4月15日、身長差なんと“30cm”のイケメン同級生と結婚し“須藤真希子”となりました。晴れて第2の人生をスタート致しましたので、ここにご報告と“キャラ変”を宣言させていただきます！

今までの「いつも笑顔で優しく、ガバナー事務所の仕事もバッチリの安藤直前ガバナーの秘書では無く、ロータリーに情熱のない方には、ガバナーに代わってまたある時はガバナー事務所事務局員第2の刺客としてビシバシ“愛の鞭”を入れていきますのでお覚悟下さい！

ちなみに、愛の鞭に打たれた方は、今年一年、ロータリーで「希望を語らずにはいられない病」になりますのでお気を付け下さいね。草々

文責 入山こず江



ロータリーとは、もとい「入山 こそ江さん」とは

【入山こそ江の目的】

入山こそ江の目的は、本田年度を支えることを基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育成することです。本質より生まれ出る自然な笑顔が、殺伐とした空気となる会議をも飲み込む効果を発揮します。

【入山こそ江の本質】

「副幹事たちの根性をたたき直したいという情熱と本田ガバナー、板垣幹事の暴走をくい止める献身的な人」

そして以下の5つの「中核となる価値観」があります。

1. 奉仕 Service

入山こそ江の目的は、副幹事に「奉仕の理念」を奨励・育成することです。

奉仕が本田年度でも中心概念であることはいうまでもありません。

副幹事たちに夜の街の中での奉仕のみならずの真意を教えることも役目の1つです。

2. 親睦 Fellowship

入山こそ江を中心として、仲間意識、仲間同士の親交、友情を育みます。

ここを中心として可能な限りすべてのロータリアンと仲間になります。

3. 多様性 Diversity

多様性のある副幹事たちをうまく飼い慣らすことができるのが、入山こそ江です。

4. 高潔性 Integrity

高潔性とは「誠実さ」「真摯さ」「高潔さ」などリーダーが具えるべき「人徳」「人間力」と言ってよいと考えます。入山こそ江は汚れてしまった副幹事の心の中まできれいに洗い流します。

5. リーダーシップ Leadership

ガバナー事務所に係わるすべての人たちにリーダーシップ開発の機会を提供しているのは実は入山こそ江かもしれません。

以上、入山こそ江は多方面にわたり本田ガバナーおよびその周辺を支える人間力を持ったとても素敵で魅力的な事務局として期待されています。

文責 小林幹昌



2013年 国際協議会 報告

2013年2月2日

ガバナー・エレクト 本田 博己

この度、米国カリフォルニア州サンディエゴで開催された国際協議会に出席させていただきました(2013年1月13日～19日)。ロサンゼルス空港に着いて直ぐの入国審査の時、旅行目的を訊かれて、プライベートな観光でも、ビジネス目的でもなく、ロータリーの地区ガバナーに就任するための特別な研修に出席するために派遣されたのだと実感し、身の引き締まる思いがいたしました。

今回は、たまたま日本からの30年ぶりの田中作次RI会長が議長として本会議を仕切り、ロン・バートン会長エレクトにバトンタッチしてゆくという流れがプログラムによく表れており、大変いい機会に巡り合った幸運に感謝したい気持ちです。(最終日の「出でて奉仕せよ」晚餐会で、東日本大震災に際しての世界中のロータリアンからの支援への感謝を述べられた田中会長の「閉会の辞」が、今回の国際協議会で最も感動的なスピーチでした)

本会議では、毎回シニア・リーダーによる“My Rotary Moment”(私のロータリー感動体験)のスピーチがあり、私たちGEもワークショップで自分のロータリー・モメントを発表し、相互に講評し合いました。

最終日には、牛久保ロータリー財団委員長とともに、本会議、パネル発表(2つの試験地区での事例)、アイデア交換、ワークショップに参加し、「未来の夢計画」を学び認識を深めました。

2015年6月末までの会員増強3か年計画(世界全体では130万人を目指す。日本ではSAKUJI作戦の継続)の再確認、若者とのコミュニケーション戦略としてのソーシャル・メディアの重視も、今回の強調項目でした。

ロン・バートン会長エレクトから発表された2013-14年度のRIテーマは、“Engage Rotary, Change Lives”「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」です。日本語訳はかなりの意識ですが、他の言語訳を見ても苦心の意識となっているようです。ロン・バートンさんのテーマ講演を英語原文で文脈を追ってみると、テーマの意味は「ロータリーに積極的に参加しよう(関わろう)!そして、自分も含めてみんなの生活(生き方・人生)を変えよう!」ということだと思います。メッセージの最後でバートンさんは、このテーマは、私たちへのチャレンジだ(my challenge to you)とおっしゃっています。私は、このチャレンジを心して受けて立ちます!

最終日の晚餐会では、国際ロータリー年次大会のアピールがありました。

2013年6月23日～26日 ポルトガル、リスボン

2014年6月1日～4日 オーストラリア、シドニー

皆様も一緒に国際大会に参加しませんか。



2013-14年度 RIテーマについて

2013年1月25日

RID2840 GE 本田 博己

1月14日の開会本会議で、ロンD. バートンRI会長エレクトが発表した2013-14年度テーマは、私のロータリー観とも合致し大変共感できるものであると感じました。これから、年度を通じてこのテーマを地区内ロータリアンに強調してゆきたいと考えています。

ただ講演を聴きながら、テーマの日本語訳にはいささか違和感を抱かざるを得ませんでした。英語以外の他の言語訳にもそれぞれの国から疑問が呈されたようだとして後で日本事務局奉仕室の島村さんから聞きました。16日夕のホスト・ホスピタリティに参加された、2770地区の渡邊さんも、ドイツのGEからそういう話を聞いたそうです。

テーマの英語原文と各国語訳を並べてみます。

- 英語原文 Engage Rotary Change Lives
- 日本語訳 ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を
- ドイツ語 Rotary leben, Leven verändern
(Rotary zu leben und Leben zu verändern)
- フランス語 Agir avec le Rotary, changer des vies
- スペイン語 Vivir Rotary, Cambiar vidas
- イタリア語 Vivere il Rotary, Cambiare vite

後節は、日本語訳を除き、いずれも「生活(生き方・人生)を変えよう」というほどの意味と思われる。問題は前節の“Engage Rotary”をどう訳しているか。ドイツ語・スペイン語・イタリア語では「ロータリーを生きよう(自分の人生にロータリーを体現しよう)」、フランス語では「ロータリーとともに行動しよう」とそれぞれ苦心?の意識となっています。

『手続要覧』の扉には、「本文の意味、解釈について疑義が生じた場合、これらの規定事項に関して英語版が正文となる」と明記されていますので、これに倣って我々もロン・バートンさんのテーマについての英文メッセージをもとにテーマについての理解を深めたほうがよいと考えます。

私たちがロータリアンであるということは、一つの生き方を選択したということではないでしょうか。それは、ロータリーの奉仕と価値観を日々の生活の中で実践すること、ロータリーを生きるという生き方です。自分が変われば、自分の可能性も広がり、世界をより良いものにしよう、他者の生活や生き方をより良く変えてゆこうというインスピレーションやパワーも湧いてくることでしょう。



テーマの解釈をめぐる議論は、日本語訳「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」を否定するものではありません。この日本語訳は、ロン・バートンさんのメッセージを要約・凝縮したものと言ってもよいと思います。

ただ、地区内ロータリアンに伝えるときには、バートンさんの真意を、バートンさんの文脈に沿って誤解のないよう伝えたいと思います。

メッセージの最後でロン・バートンさんは、このテーマは、私たちへのチャレンジだ(my challenge to you)とおっしゃっています。私は、このチャレンジを心して受けて立ちます!

*この文章は、国際協議会から帰国後、同期のガバナー・エレクトの皆さんとRIテーマについて意見交換したときの、私のレポートです。



ガバナー・メッセージ-PETSに寄せて 2013-2014年度 クラブ会長・幹事の皆様へ

2013年3月16日
国際ロータリー第2840地区
2013-2014年度
ガバナー 本田 博己

私はなぜガバナー就任要請を受けたか

2011年3月、前橋RCでのクラブ会長年度も先が見えてきて、会長年度が終わったら、ロータリー活動も一休みできるかなと思い始めていました。

前年の11月に「まえばし学校フェスタ」という新しい奉仕プロジェクトを第1分区のすべてのクラブと共に前橋市教育委員会との共催で立ち上げ、成功裏に開催できました。クラブ例会では毎回、「会長の時間」にロータリー情報を提供し、会員のロータリーに対する理解と意欲を喚起してきました。

充実感を味わいながら静かに幕を引くことができると思い始めていた矢先でした。3月11日の東日本大震災は、日本の運命を変えましたが、私の価値観や生き方、人生を変える大きな出来事でもありました。

福沢諭吉が『文明論之概略』(1875)の緒言で「恰も一身にして二生を経るが如く、一人にして両身あるが如く」と感慨をもらしています。自分の体は一つだが、明治維新の前後では、まるで違う二つの人生を生きているようだ、というのです。私もあの日以後、似た心境で過ごしています。

皆様もそうだったと思うのですが、当初は居ても立っても居られない逸る気持ちを抱えながら、「何をすればよいのか」「何ができるのか」と自問自答しました。

そのうち、義捐金・救援物資の提供や被災地での支援活動など、日本だけでなく世界中に支援の輪は広がりました。ロータリーの世界的ネットワークの力と多くの日本のロータリー・クラブそしてロータリアン個人の献身的な奉仕に希望を見出しもしました。ガバナー就任を打診されたのは、ちょうどその頃でした。

田中作次RI会長は1月の国際協議会の「閉会の辞」で、「東日本大震災は、日本を変えました。国民すべてが変わりました。そして、日本のロータリアンがロータリーを見る目も変わりました。支援を受ける側に立ったことで、人道的奉仕というものを違う目で見えるようになりました。」と述べています。

困難に直面している日本社会の中で、ロータリーは社会をより良いものに変えてゆく力と可能



性があることを示すことができたのではないのでしょうか。

私は、地区ガバナーという立場で、ロータリーという組織と奉仕の理念の可能性を、少しでも広げるために前進したいと決意しています。

ロータリーの危機とは何か

かつて、ベテランのロータリアンから、「最近ロータリーは劣化していると思わないか」と問われたことがありました。確かに、クラブや地区の組織運営、国際ロータリーという世界的ネットワークのあり方、そして何より私も含めて個々のロータリアンの姿勢に、「劣化」の兆候や「危機」を感じないといえは嘘になります。しかし、私たちは、そうした「危機」に手を拱いていたわけではありません。

例えば、下げ止まらない地区の会員減少について。2000年7月に2840地区がスタートして以来、歴代地区ガバナー年度の最重要・最優先の課題は、この会員減少をどう捉えいかに対応してゆくか、ということでした。

会員減少は「ロータリーの危機」そのものではなく、「危機」の表れです。ロータリーの魅力の低下、クラブ活力の低下にこそ「危機」の本質はあります。そうした共通認識のもと、この13年間に歴代ガバナーがご努力を続けられたのは、ロータリーの魅力回復、クラブ活力の再生でした。

希望はどこにあるか

今、クラブや地区の活動のあちこちで未来への「希望」の芽は育ちつつあります。クラブの中に「希望なんてどこにあるの？」と思う方は、クラブの現状に「あきらめ」や「不信」を感じているのでしょうか。また、そういう現状を是とし安住しようとしているのでしょうか。

私たちは、クラブの仲間をもっと信じてよいのではないのでしょうか。ロータリーは社会貢献しているという自覚と誇りをもっと持ってもよいのではないのでしょうか。

現状を是とし、そこに安住する気持ちからは、「希望」は生まれません。変化を強く望む心に「希望」は生まれます。自分たちのクラブの将来像をみんなで語り合い、クラブに対する思いをひとつにすることから、「希望」は始まります。

危機を言い募るのではなく、「希望」を語ることから始めましょう。そして、クラブ指導者の皆様は、クラブの中の「希望」の芽を育て、次世代へ「希望」を伝えてゆきましょう！



ロータリー・モメント Rotary Moment

サンディエゴでの国際協議会では、毎日の本会議でシニア・リーダーによる“My Rotary Moment”（私のロータリー感動体験）のスピーチがありました。私たちガバナー・エレクトもワークショップで自分の「ロータリー・モメントを発表し、相互に講評し合いました。

ロン・バートンRI会長エレクトは、「ロータリー・モメント」を、「ロータリーに打ち込むきっかけとなる何かをロータリーで見つけた体験」と言い換えています。スカンジナビア航空を立て直したヤン・カールソン氏の『真実の瞬間』(Moments of truth)という著書では、“Moment”を「決定的瞬間」という意味で使っています。

ロータリアンならどなたでも、特にベテラン・ロータリアンほど、そうした、ロータリーにおける「決定的瞬間」を体験したことがあるのではないのでしょうか。「希望」の芽はそこにあります。クラブの仲間に、特に後輩に「私のロータリー・モメント」を語ることから始めましょう。

RIの年次テーマ “Engage Rotary, Change Lives”

ロンD. バートンRI会長エレクトが、国際協議会で発表した2013-14年度のRIテーマは、“Engage Rotary, Change Lives”「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」です。

日本語訳はロン・バートンさんのメッセージを要約・凝縮した苦心の意識と言ってもよいと思いますが、“Engage Rotary”を素直に訳せば、「ロータリーに積極的に参加しよう（関わろう）」、“Change Lives”は、「自分も含めてみんなの生活（生き方・人生）を変えよう」となります。ロン・バートンさんの英文メッセージの文脈をたどれば、まさにそういうことを私たちに呼びかけています。

キーワードは、“Change”です。自分の生き方を“Change”できれば、みんなの人生も“Change”できる。自分が変われば、自分の可能性も広がり、世界をより良いものにしよう、他者の生活や生き方をより良く変えてゆこうというインスピレーションやパワーも湧いてくることでしょう。

私たちがロータリアンであるということは、一つの生き方を選択したということではないでしょうか。それは、ロータリーの奉仕と価値観を日々の生活の中で実践すること、ロータリーを生きるという生き方です。

メッセージの最後でロン・バートンさんは、このテーマは、私たちへのチャレンジだ(my challenge to you)とおっしゃっています。私たちはこのチャレンジを心して受けて立たなければなりません。



希望を語ろう

現代のロータリー(クラブ)に「劣化」や「危機」が見られるとすれば、それは私たちロータリアン自身、特にクラブ指導者やシニア・リーダー、地区指導者の責任であると考えます。「危機」は私たちの意志と行動で必ず克服できるものです。次世代に「希望」を伝えること、そして率先垂範することが、今何よりも求められています。

最後に、ロン・バートンさんの年次テーマ“Engage Rotary, Change Lives”と、私が掲げる地区スローガン「希望を語ろう」を一体化して、皆様へのメッセージとします。

《ロータリーに積極的に参加し、自分の生き方を変えれば、自分の中に「希望」を発見するでしょう。そして、その「希望」をクラブの仲間と分かち合い行動を起こせば、みんなの人生をより良いものに変えてゆく可能性、すなわち「希望」を確信するでしょう。》

《2013-14年度 RIテーマ》

“Engage Rotary, Change Lives”

ロータリーを実践しみんなに豊かな生活を

《2013-14年度 地区スローガン》

希望を語ろう!

地区運営上の留意点

地区ガバナーとして、地区運営上留意したいことは以下の通りです。

- 1.地区の最大の使命は、クラブ活性化を支援すること。
- 2.前例にとらわれず、地区改革を推進する。
- 3.年度を超えた継続性が重要。特に、次年度・次々年度との意思疎通・連携。
- 4.地区チームの連携を強化する。特に、ガバナー補佐、各委員会相互の連携
- 5.各クラブの声を聴く仕組みを強化する。
- 6.クラブとロータリー情報を共有することに努める。
- 7.地区運営の一層の合理化を進める。



地区協議会 開催に当たって

2013年5月12日

国際ロータリー第2840地区

2013-2014年度

ガバナー 本田 博己(前橋RC)

本日は、地区内の各クラブより、2013-14年度の会長をはじめとするクラブ指導者の皆様にお集まりいただき、まことにありがとうございます。

ロータリーでは、「地区協議会」(District Assembly)と似た言葉に、「国際協議会」(International Assembly)があります。「国際協議会」というのは、国際ロータリーで最大規模の研修会合で、世界の全地区(537地区)のガバナー・エレクトとその配偶者が一堂に会して、全7日間の研修を受講する機会です。

この国際協議会への出席がガバナー・エレクトの義務になっています。私は、今年の1月、米国サンディエゴで開催された、2013-14年度のガバナーのための国際協議会に出席させていただきました。そこで、ガバナー就任に必要な様々な情報・知識・アイデアを学び、分厚い研修資料も持ち帰りましたが、最大の成果は、ガバナーの任務に対する意欲と、2840地区の将来に対する「希望」でした。

地区協議会の目的は、「次期クラブ指導者が就任の準備を整え、指導者チームを結成する」手助けをすることと、「クラブ指導者の意欲を高め、クラブ指導者と地区指導者との協力関係を築く機会」を用意することです。

本日の地区協議会は、私たちの年度の重要優先課題に絞って、会長・幹事と関連委員長(または、理事)の皆様にお集まりいただいております。分科会も、それに合わせて「未来の夢計画」「会員増強」「クラブ戦略計画」「新世代奉仕部門」「米山記念奨学会」の5つに編成しています。

本日のプログラム、特に私の方針発表、午後の2つの報告、そして分科会での活発な討議・アイデア交換の中から、私が国際協議会で感じた意欲と「希望」を皆様にも感じていただけるよう期待しています。

心を強く、熱意を新たに、希望を高くもちましょう。

この精神が心にある限り、ロータリーは決して滅びません。

ポール・ハリス (ロータリアン誌 1926年8月号)



ガバナー・メッセージ

希望を語ろう!

国際ロータリー第2840地区
2013-2014年度
ガバナー 本田 博己

2011年3月11日の東日本大震災は、日本の運命を変えましたが、私たちの価値観や生き方、人生を変える大きな出来事でもありました。直後から始まった世界中からの支援、特に世界的ネットワークとしての国際ロータリーからの支援、そして多くの日本のロータリー・クラブとロータリアン個人の献身的な奉仕に、私は心動かされ、ロータリーの可能性と希望を見出しました。ガバナー就任を打診されたのは、ちょうどその頃でした。

私は、地区ガバナーという立場で、ロータリーという組織と奉仕の理念の可能性を、少しでも広げるために前進したいと決意しています。

2000年7月に2840地区がスタートして以来、歴代地区ガバナー年度の最重要・最優先の課題は、止まらない会員減少をどう捉えいかに対応してゆくか、ということでした。会員減少が「ロータリーの危機」なのではありません。会員減少は、「危機」の表れです。ロータリーの魅力の低下、クラブ活力の低下にこそ「危機」の本質はあります。そうした共通認識のもと、この13年間に歴代ガバナーがご努力を続けられたのは、ロータリーの魅力回復、クラブ活力の再生でした。

今、クラブや地区の活動のあちこちで活力再生の兆候、未来への「希望」の芽は育ちつつあります。クラブの中に「希望なんてどこにあるの?」と思う方は、クラブの現状に「あきらめ」や「不信」を感じているのでしょうか。また、そういう現状を是とし安住しようとしているのでしょうか。

私たちは、クラブの仲間をもっと信じてよいのではないのでしょうか。ロータリーは社会貢献しているという自覚と誇りをもっと持ってもよいのではないのでしょうか。

現状を是とし、そこに安住する気持ちからは、「希望」は生まれません。変化を強く望む心に「希望」は生まれます。自分たちのクラブの将来像をみんなで語り合い、クラブに対する思いをひとつにすることから、「希望」は始まります。

危機を言い募るのではなく、「希望」を語ることから始めましょう。そして、クラブ指導者の皆様は、クラブの中の「希望」の芽を育て、次世代へ「希望」を伝えてゆきましょう!

ロンD. バートンRI会長エレクトが、国際協議会で発表した2013-14年度のRIテーマは、“Engage Rotary, Change Lives”「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」です。

日本語訳はロン・バートンさんのメッセージを要約・凝縮した意識と言ってもよいと思いますが、“Engage Rotary”を素直に訳せば、「ロータリーに積極的に参加しよう(関わろう)」、「Change Lives」は、「自分も含め



てみんなの生活(生き方・人生)を変えよう」となります。ロン・バートンさんの英文メッセージの文脈をたどれば、まさにそういうことを私たちに呼びかけています。

キーワードは、“Change”です。自分の生き方を“Change”できれば、みんなの人生も“Change”できる。自分が変われば、自分の可能性も広がり、世界をより良いものにしよう、他者の生活や生き方をより良く変えてゆこうというインスピレーションやパワーも湧いてくることでしょう。

私たちがロータリアンであるということは、一つの生き方を選択したということではないでしょうか。それは、ロータリーの奉仕と価値観を日々の生活の中で実践すること、ロータリーを生きるという生き方です。

メッセージの最後でロン・バートンさんは、このテーマは、私たちへのチャレンジだ(my challenge to you)とおっしゃっています。私たちはこのチャレンジを心して受けて立たなければなりません。

現代のロータリー(クラブ)に「劣化」や「危機」が見られるとすれば、それは私たちロータリアン自身、特にクラブ指導者やシニア・リーダー、地区指導者の責任であると考えます。「危機」は私たちの意志と行動で必ず克服できるものです。次世代に「希望」を伝えること、そして率先垂範することが、今何よりも求められています。

ロン・バートンさんの年次テーマ“Engage Rotary, Change Lives”と、私が掲げる本年度の地区スローガン「希望を語ろう」を一体化して、皆様へのメッセージとします。

《ロータリーに積極的に参加し、自分の生き方を変えれば、自分の中に「希望」を発見するでしょう。そして、その「希望」をクラブの仲間と分かち合い行動を起こせば、みんなの人生をより良いものに変えてゆく可能性、すなわち「希望」を確信するでしょう。》

《2013-14年度 RIテーマ》

“Engage Rotary, Change Lives”

ロータリーを実践しみんなに豊かな生活を

《2013-14年度 地区スローガン》

希望を語ろう!



国際ロータリー第2840地区 2013-2014年度 地区目標

1.クラブを元気にしよう

クラブのアイデンティティ(強み、らしさ、個性)を再構築するために、クラブ戦略計画を立案し推進しよう。
クラブ活力の再生は会員増強につながる。

2.会員全員がリーダーシップを発揮できるような環境を整えよう

クラブのロータリー研修を充実しよう。リーダーシップ開発研修としてのロータリー・リーダーシップ研究会(RLI)セミナーに積極的に参加しよう。

3.地域社会に対する発信力を高めよう

広報だけでなく、会員とクラブの活動全体で、地域社会に対する発信力を高め、ロータリーの公共イメージを高めよう。

4.中核となる価値観を共有し、奉仕を実践しよう

私たちの行動指針となる「奉仕“Service”」、「親睦“Fellowship”」、「多様性“Diversity”」、「高潔性“Integrity”」、「リーダーシップ“Leadership”」という5つの価値観を共有し、奉仕の実践に努めよう。(「奉仕するものは行動しなければならない。」決議23-34)

5.IMを開催し、私たちの課題と「希望」を確認しよう

年度後半に、分区・グループ単位でIM(インターシティ・ミーティング)を開催する。

6.子どもの未来を育もう

正田ガバナー年度のテーマ「次代を担うこども達に向けて」を継承する。

7.ロータリー財団の「未来の夢計画」に積極的に参加しよう

「未来の夢計画」への積極的参加によって、クラブ活力再生の突破口としよう。
ポリオ撲滅にあと少し。ポリオ・プラスへの支援を継続しよう。

8.米山記念奨学会への認識を高めよう

日本独自の多地区合同奉仕プログラムである米山記念奨学会を積極的に支援しよう。

9.地区大会にクラブ全員で参加しよう

地区大会で、ロータリアンであることを祝おう。感動を共有しよう。

数値目標

1.会員増強	地区会員数2,000名以上回復	
2.ロータリー財団への寄付目標	1人	150ドル
3.米山奨学会への寄付目標	1人	16,000円以上



国際ロータリー第2840地区 2013－2014年度 地区組織編成の考え方 (地区組織図 解説)

A. ガバナー (Governor)

1. ガバナーの地区に対する責務は次の14か条です。

- ① 新クラブ結成 ② 既存クラブの強化助成 ③ 個々のクラブの会員増強目標の設定と会員増強の推進 ④ ロータリー財団の支援(日本においては加えて米山記念奨学会の支援) ⑤ クラブ間およびクラブとRIの間の良好な関係の促進 ⑥ 地区大会の計画・主宰、およびPETS、地区協議会の準備にあたるガバナー・エレクトへの協力 ⑦ 効果的なクラブ公式訪問の実施 ⑧ ガバナー月信の発行 ⑨ RIに対する迅速な報告 ⑩ ガバナー・エレクトに対する各クラブの状況についての情報提供並びにクラブ強化策の推奨案の提供 ⑪ 地区における指名および選挙の適正実施 ⑫ 地区内で運営されているロータリアンのグループの定期的確認 ⑬ 地区で保存すべき文書のガバナー・エレクトへの引継ぎ ⑭ 地区におけるRI役員としてのその他の任務の遂行 (RI細則15.090:『2010年手続要覧』30-31ページ 要約)

この14か条の内、最初の3か条が、Membership Development(「会員増強」と訳されてきた)に関する任務です。Membership Development がガバナーの最優先課題と解されます。本田年度では、Membership Development の基盤である、**クラブ活力の再生、クラブ組織の強化**(=②既存クラブの強化助成)を最重要課題と位置づけています。

2. ガバナーは、パスト・ガバナー、直前ガバナーおよびガバナー・エレクト、ガバナー・ノミニーと協力し、地区運営の継続性・発展性を図ります。

3. ガバナーは、**地区リーダーシップ・プラン**(District Leadership Plan:DLP)と**クラブ・リーダーシップ・プラン**(Club Leadership Plan:CLP)に基づき、地区研修リーダーの支援を得て、ガバナー補佐および各委員会委員長を指揮して地区内クラブの指導・助成を行います。

B. パスト・ガバナー (Past Governors)

1. パスト・ガバナーの皆様には、ガバナーの地区運営に関する指導役あるいはサポート役として、ガバナー諮問委員会の他、各種委員会の分担をお願いしています。

2. 今年度のご担当委員会は以下の通りです。

地区研修委員会	委員長 曾我隆一PG	副委員長 横山公一PG
危機管理委員会	委員長 森田 均PG	委員 松倉紘洋PG



規定審議会立法案検討委員会	委員長・副委員長	未定
地区戦略計画委員会	委員長	清 章司PG 委員 疋田博之 直前G
会員組織強化委員会	委員長	牛久保哲男PG 副委員長 安藤震太郎PG
新世代奉仕部門連絡会議	議長	松倉紘洋PG
ロータリー財団委員会	委員長	牛久保哲男PG アドバイザー 高木貞一郎PG

C. ガバナー・スタッフ

1. 当年度地区幹事(2年幹事)は、地区会計長と連携し、地区運営を統轄します。また、前年度地区幹事(1年幹事)、次年度地区幹事(3年幹事)と協力し、地区運営の継続性に努めます。
2. 会計長は、「地区財務委員会」の委員長として、地区会計を統轄し、ガバナーとともに、地区資金の銀行口座の署名人となります。
3. 地区副幹事は、8名で、複数の任務(委員会・行事等)を分担して担当します。委員会・行事の事務・連絡・記録は各担当副幹事が行います。

D. ガバナー補佐 (Assistant Governor)

1. ガバナー補佐は、ガバナーの地区管理を補佐する公式の役職として、地区リーダーシップ・プラン(DLP)の中核を成しています。地区内46クラブを6分区、8グループとして、8名のガバナー補佐を配置しています。
2. ガバナー補佐の主要責務は、担当クラブの管理運営に関してガバナーを支援することです。そのためには、ガバナーとだけではなく、他のガバナー補佐、地区委員会委員長、ガバナー・エレクトと十分な連携をとる必要があります。また、担当クラブを効果的に支援できるよう、クラブ指導者との密接な対話を通じて信頼関係を築き、クラブがクラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)を推進し、活性化する手助けをすることが重要任務です。

E. 特別委員会

特定のテーマや課題を解決するため、必要に応じて編成します。PG、ガバナー補佐、地区委員会委員長、地区役員経験者等から委員をお願いしています。

1. 地区研修委員会

地区研修会合の計画・実施に関して、ガバナー、ガバナー・エレクトを支援し、クラブ研修リーダーと連携しクラブのロータリー研修を支援します。

また、ロータリー・リーダーシップ研究会(RLI)セミナーを主管します。



2.危機管理委員会

国際ロータリーが提唱する新世代奉仕のプログラムに参加する青少年の安全と健康及び健全な生活を守り、交通事故・自然災害から保護し、身体的・性的・精神的虐待あるいはハラスメントを防止すると共に、起こりうる危機に適切に処理できるように設置しています。委員長はパスト・ガバナーにお願いし、ロータリアン以外の有識者も含めて構成します。

3.規定審議会立法案検討委員会

規定審議会に提案すべき立法案について地区内ロータリークラブの提案を検討して取りまとめます。

委員にはガバナー補佐が当たります。

本年度は、2016年規定審議会の地区代表議員と代表補欠議員を選出する年度です。また、年度後半には、地区内全クラブに2016年規定審議会のスケジュールを案内し、立法案の提案を呼びかけます。

4.地区戦略計画委員会

地区およびクラブにおける戦略計画の立案と推進を支援する委員会です。

本年度は、地区の戦略計画(3か年)の策定を目指します。

F. 常設委員会

1.ロータリー財団委員会

「未来の夢計画」がいよいよ実施年度を迎えます。そのため、前年度より委員会組織編成と委員の拡充を行い態勢を整えながら、「未来の夢」に対するクラブの理解を深めるセミナー等を実施してきました。

本年度よりの3年委員会とし、奉仕プロジェクトの各委員長を委員とする「地区財団運営会議」を委員会の中に設置し、「未来の夢」を地区全体で取り組む体制としています。ポリオ撲滅に向け、ポリオ・プラスへの支援も継続します。

2. 会員組織強化委員会

この委員会は、従来の「会員増強」(Membership Development)を「会員組織強化」と捉えなおし体制を強化したもので、CLPに基づくクラブ委員会組織の「会員増強委員会」と呼応しています。

Membership Developmentの目的は、単に会員数の増大を図ることではなく、「会員組織の強化」です。これは、ガバナーの最優先課題であり、地区内の全クラブがクラブ全体で取り組むべき課題でもあります。したがって、ガバナー補佐8名を委員として、地区内全クラブに対する「会員組織強化」の支援体制を整えました。



3.公共イメージ(オンツー・シドニー)委員会

「公共イメージ(Public Image)と認知度の向上」は、RIの戦略計画の3つの優先項目のひとつです。この委員会は、ロータリーのブランド戦略を推進する委員会として、従来の広報を超える活動が期待されます。また2014年6月1日～4日、オーストラリアのシドニーで開催される国際大会への参加を広く呼びかけます。

4.職業奉仕委員会

奉仕プロジェクトから独立させ、「職業奉仕」の意義とロータリーの中核的価値観の浸透に努めます。

5.管理運営委員会・IT委員会

この委員会は、CLPの推進、クラブ活性化支援と、地区とクラブのIT環境整備の役割を担います。また、「卓話・クラブ研修出前サービス」の窓口となっています。各クラブには、引き続き「クラブ情報通信担当委員」(CICO)の選任をお願いします。

6.奉仕プロジェクト

奉仕プロジェクトは、「地域社会奉仕委員会」(「社会奉仕委員会」を改称)、「国際奉仕委員会」と「新世代奉仕部門」の各委員会で構成される。奉仕プロジェクトの各委員会委員長は、「未来の夢計画」で実施するプロジェクトの充実のため、ロータリー財団の「財団運営会議」の委員も務めます。

「新世代奉仕部門」は、「青少年交換委員会」、「インターアクト委員会」、「ローターアクト委員会」、「RYLA委員会」の各委員会で構成されます。

新世代奉仕の各委員会の連携を強化するため、「新世代奉仕部門連絡会議」を新設します。

また、ローターアクトの地区役員との連携強化のため、「ローターアクト委員会」の下に「ローターアクト合同会議」を新設します。

7. 米山記念奨学委員会

ロータリー財団と並んで、日本が誇る多地区合同の国際奉仕事業であり、その実績は高い評価を得ています。私たちは寄付を通じて、また世話クラブやカウンセラーを引き受けることにより、海外との知己を得、国際親善事業に参画する喜びを感じることができます。

G. 地区行事

1.「地区協議会」は、各ロータリークラブの新年度指導者育成を目的にしています。本年度は、2013年5月12日(日)に前橋商工会議所で開催されます。ホストクラブを前橋南RC、コ・ホストを前橋北RCにお願いしています。



2.「地区大会」は、2013年10月27日(日)に群馬県民会館で開催されます。ホストクラブを前橋RC、コ・ホストを前橋西・東RCにお願いします。前日の26日(土)には、前橋商工会議所で、地区指導者育成セミナーとRI会長代理歓迎晩餐会が開催されます。

3.「地区大会記念ゴルフ大会」は、2013年9月29日(日)にサンコー72カントリークラブで開催されます。ホストクラブを前橋中央RC、コ・ホストを前橋RCにお願いしています。

H. ガバナー・エレクト、ガバナー・ノミネー

1.ガバナー・エレクトとそのスタッフ(2014-15年度)

ガバナー・エレクト: 竹内 正幸さん(太田RC)

地区幹事: 春山 和夫さん(太田RC)

地区財務委員: 長島 章博さん(太田RC)

地区副幹事9名(いずれも太田RC)

2.ガバナー・ノミネー(2015-16年度)

生方 彰さん(沼田中央RC)

3.2016-17年度のガバナー・ノミネーを本田年度中に選出する必要があります。

I. 地区運営上の変更点

1.地区運営の一層の合理化と「未来の夢計画」施行によるロータリー財団管理業務の増大に対応するため、地区ガバナー事務所の固定化(ガバナー事務所とガバナー・エレクト事務所の併設)を試行します。

2. 上記に伴い、地区予算・決算も単年度(7月～翌年6月)方式に移行します。



標準ロータリー・クラブ定款の改訂について

2013.6.7

2013年規定審議会で採択された立法案(制定案)で、標準ロータリー・クラブ定款の改訂部分をお知らせいたします。この改訂は2013年7月1日より有効となりますので、『クラブ現況報告書』等に反映して、クラブ運営の参考にいただければ幸いです。なお、この改訂条文は、規定審議会結果速報と立法案集に基づいていますので、本年12月頃発行予定の『2013年手続要覧』日本語版とは、訳語・訳文が異なる場合もあるかもしれませんので、ご了承願います。

*以下の、条文で、削除する個所には抹消の線(====)が引かれ、改訂された本文には載らない。改訂される文章には下線(____)が引かれている。

●第1条 定義 (立法案13-32)

本条の語句は、本定款で使われる場合、他に明確に規定されない限り、次の意味を持つものとする。

1. 理事会: 本クラブの理事会
2. 細則: 本クラブの細則
3. 理事: 本クラブの理事会メンバー
4. 会員: 名誉会員以外の本クラブ会員
5. RI: 国際ロータリー
6. 衛星クラブ 潜在的クラブ。その会員は本クラブの会員でもある。

(該当する場合):

6.7. 年度: 7月1日に始まる12カ月間

●第2条 名称 (1つを選択する)(立法案13-32)

本会の名称は、_____ロータリー・クラブとする。
(国際ロータリー加盟会員)

または

本会の名称は、_____ロータリーE クラブとする。
(国際ロータリー加盟会員)

(a) 本会の衛星クラブ(該当する場合)の名称は、

_____ロータリー衛星クラブ(_____ロータリー・クラブ)とする。



●第5条 五大奉仕部門（立法案13-69）

ロータリーの五大奉仕部門は、本ロータリー・クラブの活動の哲学的および実質的な規準である。

.....

5.奉仕の第五部門である新世代青少年奉仕は、指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者によって、好ましい変化がもたらされることを認識するものである。

●第6条 会合（立法案13-32）

第2節 年次総会。役員を選挙するための年次総会は、細則の定めるところに従い、毎年12月31日までに開催されなければならない。

(a)衛星クラブ(該当する場合)も、衛星クラブの管理全般を担う役員を選挙するため、12月31日までに年次総会を開催するものとする。

第3節 衛星クラブの例会(該当する場合)。衛星クラブは、細則の定めるところに従い、会員により定められた場所と日時において、毎週1回、定期の会合を開くものとする。例会の日、時間、場所は、本条第1節(b)と同様の方法で変更できる。衛星クラブの会合は、本条第1節(c)に列記されたいずれの理由によっても取りやめることができる。投票手続は細則の規定通りである。

●第7条 会員身分（立法案13-49、13-51）

第4節 移籍ロータリアンまたは元ロータリアン。

(a) 会員候補者。会員は、移籍する会員または元クラブ会員を正会員に推薦することができるが、被推薦者がかつて属していたクラブを退会する、または退会した理由は、本人がそのクラブの所在地域内またはその周辺地域でそのクラブにおいて本人が分類されていた職業分類の下に現実に職業活動に従事しなくなったということではなければならない。本節の下に正会員に推薦された移籍会員または元クラブ会員は、元の所属クラブによって推薦されることもできる。選出によってクラブ会員数が職業分類の制限を一時的に超えることになっても、クラブの移籍会員または元クラブ会員の職業分類は、正会員に選出されることを妨げるものであってはならない。本クラブの会員候補者が、ほかのクラブの現会員または元会員であり、そのクラブに対して負債がある場合、この候補者は本クラブへの入会資格がない。本クラブは、ほかのクラブに対して金銭的債務がないことの書面による証明を提出するよう、会員候補者に要求すべきであることができる。

移籍ロータリアンおよび元ロータリアンの正会員としての入会には、本節の下に、当該会員がかつて所属していたクラブの理事会から、同会員がそのクラブの会員であったとの証明を受領することを条件とするものである。移籍会員や、クラブを変える元会員は、以前に所属していたクラブからの推薦状を持参するよう求められるべきであり、以前のクラブからの書面による承認を得るまでは、そのような会員を入会させるべきではない。



●第7条 会員身分 (立法案13-52)

第4節—移籍ロータリアンまたは元ロータリアン。

(b) 現会員または元会員。本クラブは、ほかのクラブから要請があった場合、ほかのクラブの会員候補者として考慮されている本クラブの現会員または元会員が、本クラブに対して金銭的債務を負っているかどうかを記した文書を提供するものとする。要請から30日以内にそのような文書を提供しなかった場合、当該会員は本クラブに対して債務を負っていないと見なされるものとする。

●第7条 会員身分 (立法案13-32)

第5節—衛星クラブの会員。衛星クラブの会員はスポンサー・クラブの会員でもあり、これは衛星クラブがロータリー・クラブとしてRIから加盟が認められるまで続く。

第56節—二重会員。同時に、本クラブと本クラブの衛星クラブ以外の別のクラブにおいて、正会員になることはできない。いかなる人も本クラブにおいて、正会員であると同時に名誉会員の資格を保持することはできない。また、いかなる人も、本クラブの正会員であると同時にローターアクト・クラブの会員になることはできない。

(続く各節は、該当する番号に振り直す)

●第9条 出席 (立法案13-12、13-32)

(第1節の序文の段落のいずれかを選択する)

第1節—一般規定。各会員は本クラブの例会、あるいは細則により定められている場合は衛星クラブの例会に出席し、本クラブの奉仕プロジェクトその他のイベント・活動に参加すべきものとする。会員が、ある例会に出席したものとみなされるには、その例会時間の少なくとも60パーセントに出席するか、または、会合出席中に不意にその場を去らなければならなくなった場合、その後その行為が妥当であるとクラブ理事会が認める理由を提示するか、または、次のような方法で欠席をメイクアップしなければならない。

または

第1節—一般規定(Eクラブ)。各会員は本クラブの例会に出席すべきものとする。ある例会に出席したものとみなされるには、クラブのウェブサイトにて例会が掲載されてから1週間以内に会員がその例会に参加するか、または、次のような方法で欠席をメイクアップしなければならない。

(a) 例会の前後14日間。例会の定例の時の前14日または後14日以内に、

(1) 他ロータリー・クラブ、他ロータリー・クラブの衛星クラブ、または仮クラブのいずれかの例会の少なくとも60パーセントに出席すること。または

(2) ……………

(3) ……………

(4) 他クラブまたは他クラブの衛星クラブの例会に出席の目的をもってそのクラブの例会定刻に定例会



場に赴いたとき、当該クラブが、定例の時間または場所において例会を開いていなかった場合。または、

(5) ……………

(6) ……………

(7) ……………

会員が14日以上にわたり海外で旅行している場合、会員が旅行中他国で他クラブあるいは衛星クラブの例会に出席するならば、メイクアップ期間に拘束されない。このような出席は、会員の海外旅行中欠席した例会のメイクアップとして有効とみなされる。

●第9条 出席（立法案13-22）

第3節－出席規定の免除。 次のような場合、出席規定の適用は免除されるものとする。

(a) 理事会の承認する条件と事情による欠席の場合。理事会は、正当かつ十分な理由による会員の欠席を認める権限を持つ。このような出席規定の適用の免除は、最長12カ月間までとする。ただし、健康上の理由から12カ月間を超えて欠席となる場合は、理事会が改めて、当初の12カ月の後に、さらに一定期間の欠席を認めることができる。そのような健康上の理由による欠席は、クラブの出席記録上で欠席として算入されないものとする。

●第9条 出席（立法案13-23）

第3節－出席規定の免除。 次のような場合、出席規定の適用は免除されるものとする。

(b) ~~年齢が65歳以上の会員で、かつ、~~一つまたは複数のロータリー・クラブのロータリー歴と会員の年齢の合計が85年以上であり、さらに出席規定の適用を免除されたい希望を、書面をもって、クラブ幹事に通告し、理事会が承認した場合。

●第9条 出席（立法案13-27）

第4節－RI役員の欠席。 会員が現役のRI役員または現役のRI役員の配偶者である場合、その会員に対する出席規定の適用は免除されるものとする。

●第9条 出席（立法案13-28）

第5節－出席の記録。 本条第3節(a)の下に出席規定の適用を免除された会員がクラブ例会を欠席した場合、その会員と会員の欠席は、出席記録に含まれないものとする。本条第3節(b)または第4節の下に出席規定の適用を免除された会員がクラブ例会に出席した場合、その会員と会員の出席は、本クラブの出席率の算出に使う会員数と出席者数に含まれるものとする。

**●第10条 理事および役員**（立法案13-02、13-03、13-32）

第4節－役員。クラブの役員は、会長、直前会長、会長エレクト、~~1名または数名の副会長、幹事、会計、および会場監督とする。~~とし、1名または数名の副会長、および会場監督を役員に含めることができる。このうち、会長、直前会長、会長エレクト、~~および副会長~~（任命された場合）、および幹事は、全員理事会のメンバーとする。また、~~幹事、会計および会場監督~~（任命された場合）は、細則の定めるところに従って、理事会のメンバーであっても、またはそうでなくてもよいとすることができる。

細則により定められている場合は、クラブ役員が定期的に衛星クラブの例会に出席するものとする。

●第10条 理事および役員（立法案13-06、13-58）**第5節－役員選挙。**

(c) 資格要件。各役員および各理事は、いずれも、本クラブの瑕疵なき会員でなければならない。クラブ会長の候補者は、指名に先立つ少なくとも1年間、当クラブの会員であるものとする。ただし、1年未満であっても、当該会員の奉仕がこの要件の趣旨を満たしていると地区ガバナーが判断した場合は例外となる。会長エレクトは、ガバナー・エレクトから特に免除されない限り、会長エレクト研修セミナーと地区研修協議会に必ず出席しなければならない。免除された場合は、所属クラブによって指名された代理を必ず派遣しなければならない。この代理人は会長エレクト本人に対し結果報告するものとする。会長エレクトが、ガバナー・エレクトからの免除を受けずに、会長エレクト研修セミナーおよび地区研修協議会に出席しない場合、あるいは、免除されても指定の代理をこれらの会合に派遣しなかった場合、かかる会長エレクトはクラブ会長に就任できないものとする。このようなことが起こった場合、会長エレクト研修セミナーおよび地区研修協議会、もしくはガバナー・エレクトが十分であるとみなした研修に出席した後任者が正式の手続きによって選挙されるまで、現会長が継続してクラブ会長を務めるものとする。

●第10条 理事および役員（立法案13-32）

第6節－本クラブの衛星クラブの組織運営（該当する場合）。衛星クラブは、スポンサー・クラブと同じ、またはその周辺地域に所在するものとする。

(a) 衛星クラブの監督。スポンサー・クラブは、スポンサー・クラブの理事会が適切とみなす一般的な監督と支援を、衛星クラブに提供するものとする

(b) 衛星クラブの理事会。衛星クラブの日々の運営のため、衛星クラブ独自の理事会を毎年選出するものとする。この理事会は会員から選ばれ、細則の定めるところに従って、衛星クラブの役員および4～6名のその他の会員により構成される。衛星クラブの最高役員は議長(chairman)であり、その他の役員は、直前議長、議長エレクト、幹事、会計である。衛星クラブ理事会は、スポンサー・クラブの指導の下、ロータリーの規定、要件、方針、目標、目的に従って、衛星クラブの日々の運営とクラブ活動の管理を担う。スポンサー・クラブ



内またはスポンサー・クラブに対して、いかなる権限も持たない。

(c) 衛星クラブの報告手続。衛星クラブは、毎年、クラブ会員と、クラブの活動およびプログラムに関する報告書を、スポンサー・クラブの会長と理事会に提出するものとする。この報告書には、財務諸表と監査済みの会計報告を添付するものとし、これらは、スポンサー・クラブの年次総会に向けた報告書に含まれる。また、スポンサー・クラブからの要請に応じて、その他の報告書を随時提出する。

●第11条 入会金および会費 (立法案13-08)

すべての会員は、細則の定める入会金および年会費を納入しなければならない。ただし、第7条第4節(a)に従い、本クラブの会員として受け入れられた移籍会員、~~あるいは~~他クラブに属していた元会員、あるいは本クラブに再入会する本クラブ元会員は、2度目の入会金の納入を義務づけられないものとする。本クラブの会員として受け入れられ、入会の前2年以内にローターアクトとしての会員身分を終了したローターアクターには、入会金の支払いが義務づけられないものとする。

●第12条 会員身分の存続 (立法案13-12、13-14、13-32)

第4節—終結 欠席。

(a) 出席率。会員は、

(1) 年度の各半期間において、メイクアップを含む、クラブまたは衛星クラブの例会出席率が少なくとも50パーセントに達しているか、クラブのプロジェクトその他のイベント・活動に少なくとも12時間参加していなければならない。または、バランスの取れた割合でその両方を満たしていなければならない。

(2) 年度の各半期間に開かれた、本クラブまたは衛星クラブの例会総数のうち少なくとも30パーセントに出席、またはクラブのプロジェクトその他のイベント・活動に参加しなければならない(RI理事会によって定義されたガバナー補佐は、この義務を免除されるものとする)。

会員が規定通り出席できない場合、その会員身分は、理事会が正当かつ十分な理由があると認めない限り、終結することができる。

●第12条 会員身分の存続 (立法案13-48)

第5節—他の原因による終結。

(a) 正当な根拠。理事会は、いずれの会員も、本クラブの会員としての資格条件に欠けるようになった場合、もしくは他に十分と認められる根拠があれば、特にその目的のために招集された理事会の会合において、出席している全投票理事会全員の3分の2を下らない賛成投票によって、その会員身分を終結することができる。本会合の指針となる原則は、第7条の第1節、「四つのテスト」、およびロータリー・クラブ会員として持つべき高い倫理基準とする。



ロータリーの目的 「綱領」邦訳の改訂について

規定審議会での改訂事項ではありませんが、「Object of Rotary」の訳が新たに「ロータリーの目的」(旧「ロータリーの綱領」)となり、その本文訳は以下の通り改訂されました。

翻訳改訂までの経緯については、「ロータリーの友」2013年1月号18ページに掲載された記事をご参照ください。『2013年手続要覧』をはじめ、今後改訂される資料には新訳が掲載されます。なお、英語の原文に一切変更はありません。

ロータリーの目的 (国際ロータリー定款、標準ロータリー・クラブ定款 第4条)

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を實踐すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

*参考 旧訳

第4条 綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある。

- 第1 奉仕の機会として知り合いを広めること。
- 第2 事業および専門職務の道徳的水準を高めること。
あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること。
- 第3 ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること。
- 第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。



国際ロータリー第2840地区 2013-2014年度

本田ガバナー事務所

所在地:〒371-0855 群馬県前橋市問屋町2-2

前橋問屋センター会館 1F

TEL:027-212-2840

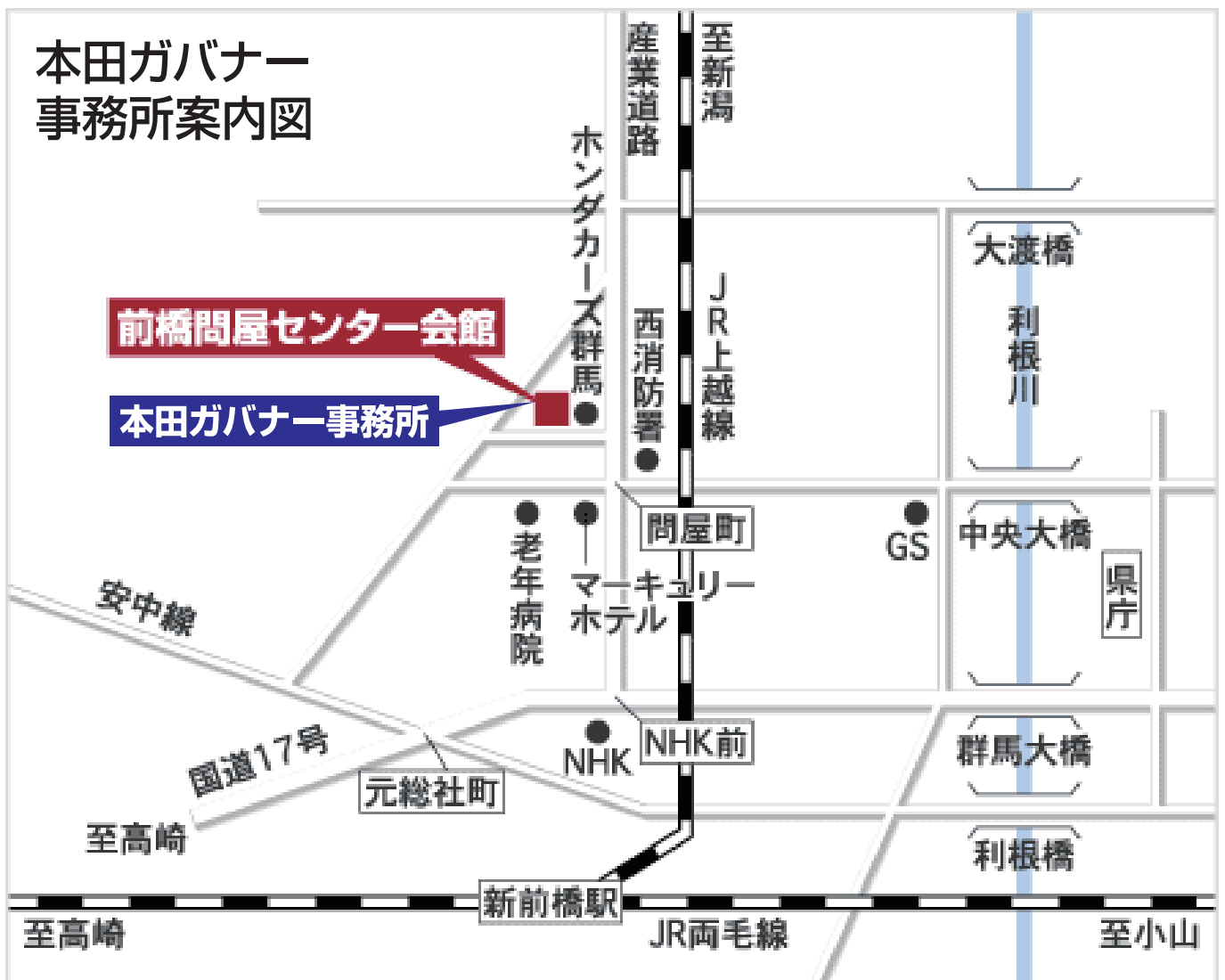
FAX:027-212-2841

E-mail:honda@rid2840.jp

勤務時間:午前10時~午後5時(土・日・祝日は休み)

事務局員 入山 こず江

事務局員 須藤 真希子





編集後記

今年度、ガバナー月信編集長を仰せつかりました温井尚久と申します。1年間よろしく申し上げます。

ガバナー月信創刊ゼロ号いかがだったでしょうか？

本田ガバナーエレクトの熱い想いと決意を感じ取っていただけたと思います。

これから毎月1日発行で7月号から来年6月まで皆様にお届けします。そして、来年7月には終刊号も発行する予定です。「ガバナー月信」ではガバナーのメッセージ・コラム、パストガバナーによるエッセイをはじめ、セミナー報告、会員情報等をタイムリーにお伝えします。このガバナー月信が会員の「希望を語る場」となり、各クラブの活性化の一助となれば幸いです。

これから皆様には記事のご投稿など無理なお願いをさせていただきますが、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

2013-14年度ガバナー月信編集長 地区副幹事 温井尚久(前橋RC)